

失語症 フレンドリー プロジェクト in 大田原 ～コミュニケーションのバリアフリーで 「やさしい街」をつくる～



失語症
フレンドリー
プロジェクト

国際医療福祉大学 保健医療学部 言語聴覚学科
3年 瘡師 愛真 杉田涼介
1年 上沢葵 飯田裕菜
講師 櫻岡 絵里香

02 失語症とは

失語症とは？

脳の損傷によって生じる「ことば」の障害。

聞いて理解する、話す、読む、書くなどの言語機能に困難が生じる。

全国の失語症者数の目安

約 30~**50万人**

大切なポイント

失語症は「ことば」の障害。話しにくさや理解の難しさがあっても、本人の考えや気持ち、知的能力そのものが失われたわけではない。

だからこそ、本人の努力だけでなく、周囲の理解やコミュニケーションの工夫が重要になる。

03 失語症のある人が置かれている社会状況

「伝えたいのに、伝えられない」

① 理解されにくい

意思が相手に伝わりにくく、「分かってもらえない」と感じることがあります。

② 参加しにくい

会話や地域活動など、人との交流から距離を置いてしまうことがあります。

③ 支援が届きにくい

外見からは分かりにくい
ため、周囲が困難に気づきにくい場合があります。

必要なのは「当事者の頑張り」ではなく、
「伝わりやすい環境」をつくること

プロジェクトの目的・目指す姿

コミュニケーションのバリアフリーで
「やさしい街」をつくる

プロジェクトの目的

失語症に対する地域の理解を深め、失語症のある人が安心して暮らせるように、コミュニケーションのバリアフリーな環境を地域全体でつくる。



知る → 気づく → 工夫する → つながる

今年度の取り組み概要

01

地域との 接点づくり

大田原商工会議所、
失語症友の会（那須
ひまわり会）の方との
意見交換・研修



02

啓発ツールの 制作

ロゴ・マスコットキャラ
クター等を
活用した発信
パンフレットの作成



03

地域イベント への参加

大田原市のとうがらし
フェスタでの
説明・体験・交流



04

今後の展開

地域で継続できる
「失語症にやさしい」
仕組みを検討



06 活動① 失語症研修：大田原商工会議所青年部



ねらい

失語症のある人が地域のお店を利用する場面を想定し、「どのような声かけ・対応があると伝わりやすいか」を考える機会をつくる。

活動を通して伝えたいこと

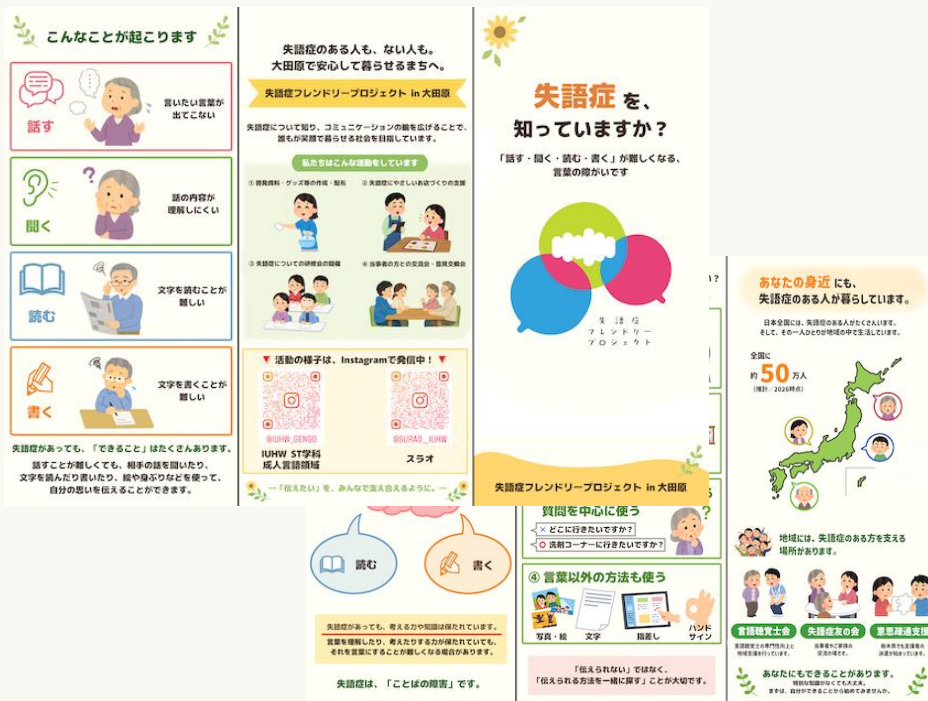
「できないこと」ではなく、「どうすれば伝わるか」に着目する。

活動② 伝えるためのツールづくり



ロゴ／キャラクター

プロジェクトの理念を伝えるロゴを作製。親しみやすいキャラクターを通して、「知る」きっかけづくり



パンフレット

一般の市民向けに失語症と具体的なコミュニケーションの工夫を伝える資料を作成

チラシ作成

店舗・経営者向けに本プロジェクトを紹介し、参加を呼びかけるチラシを作成



08 活動③ 大田原市とうがらしフェスタに出展



活動のポイント

一方的に説明するのではなくクイズや体験などを通して、
「失語症について知り、考えるきっかけ」をつくる。

活動を通して見えてきたこと

1

知る

失語症について知らない人にも、身近な話として伝える工夫が必要。
例「脳卒中」というキーワードは認知度が高い

2

伝わる

専門用語を減らし、具体例やイラストを使う工夫で、より伝わりやすくなる。

3

行動する

「知る」だけでなく、実際の場面でどう声をかけるかまで伝える必要がある。
我々が当事者とともに「街に出る」行動も必要。



「やさしい街」をつくるには、地域全体への継続的な働きかけが必要



現時点での課題

認知度

「失語症」という言葉だけでなく、どんな障害なのか・どう接すればいいのかまで知ってもらう必要がある。

実践へのつながり

「理解する」から「実際に対応する」までには段階がある。
具体的な方法を伝える必要がある。

継続性

イベントで終わらせず、地域のお店・施設・住民などと継続的につながる仕組みが必要。

後半は「地域に残る仕組み」を意識して取り組む



今後の取り組み

地域への発信を継続

パンフレットやSNSを活用し、失語症や本プロジェクトについて知ってもらう機会を増やす

失語症フレンドリー仲間を増やす

具体的なコミュニケーション方法を、学生や地域の方に分かりやすく伝えていく

地域とのつながりを広げる

商店・施設・地域団体などとの連携し、まずは「やさしい店づくり」を1店舗でも実行する。いずれ、失語症フレンドリーマップ作成へ。

活動を次年度へつなげる

学生、地域、当事者団体との連携により、継続可能な取り組みの形を考える

失語症のある人が地域で安心して参加できる」環境へ



私たちが目指す「やさしい街」

知る

失語症を知る



気づく

「伝わりにくさ」
に気づく



工夫する

伝わりやすい
方法を選ぶ



つながる

地域で安心して
参加する

「伝えられない」ではなく、
「伝えられる方法を一緒に探せる」地域へ



これまで

地域との交流・啓発ツール制作・イベント参加などを通して、失語症を知ってもらう活動に取り組んだ。

分かったこと

「知ってもらう」ことに加え、実際のコミュニケーションの工夫まで伝えることが重要。

これから

地域とのつながりを広げ、「やさしい街」を継続的につくる仕組みへ。

コミュニケーションのバリアフリーで「やさしい街」をつくる

ご清聴ありがとうございました。

